

## 29【P2】Ⅱ-264

『草木図説』の遺稿研究(第一報) CD化に成功した『江崎家草部稿本』にみる未収載植物

○田中 俊弘<sup>1</sup>, 酒井 英二<sup>1</sup>, 水野 瑞夫<sup>1</sup>, 遠藤 正治<sup>2</sup>, 江崎 孝三郎<sup>3</sup>(<sup>1</sup>岐阜薬大,<sup>2</sup>愛知大学,<sup>3</sup>慈齋研究会)

【目的】飯沼慾齋の著作である『草木図説 草部』20巻と『草木図説 木部』10巻はすでに発行されている。草木図説は全部で40巻からなるものとされているが、その詳細については解明されていない。草木図説の原稿が発見されたのは、昭和32年江崎美奈子女史により大垣市文化財課に連絡されてその存在がはじめて明らかになった。この稿本は『江崎家草部稿本』として認識されてきた。稿本は27巻からなり、僅かの木本を除けば大部分が草本性の植物であり合計1618点に及ぶ。このうち未収載部分の多くはシダ植物、イネ科、カヤツリグサ科であり、その同定を含めての精査が行われていないので、今回その解明を行う。

【方法】『江崎家草部稿本』は重要文化財に指定されているので十分な研究を行うことが出来なかった。しかし今回著者の一人、江崎によりCD化(全27巻)に成功したことで、貴重な遺稿を利用しての精査が可能となり、飯沼慾齋が書き残した記述の解読と植物図の同定を行った。なお稿本が江崎家に伝わった経緯についても併せて検討した。

【結果・考察】江崎家に伝わった経緯は、江崎美奈子女史の祖父で大垣竹島町の本陣役を務めていた飯沼計之助・や越(ヤ)夫妻が、廃藩置県後に本陣役が廃止された後に整理をした。計之助の亡き後、長男の飯沼憲吉があとを継いだ。父の後を追うように世界したため、本陣の資料の一部はや越が晩年身を寄せた憲吉の妹で江崎家に嫁いでいた「しゅん」のもとに移された事が明らかになった。稿本27巻における収載品目を検討した結果、18巻および19巻はイネ科、カヤツリグサ科であり、10巻は大部分が未収載のシダ植物であることがあきらかになり、稿本1618点のうち未収載は449点であることを明らかにした。